



## First ファースト

「ファースト」は、部屋の両端に二段ベッドを設置した13平米のタイプ。ファミリー層が使用することが多く、スタンダードタイプは使い易い。船内に一室ずつ、「くまモンと夢見る船旅ルーム」と「ぐりぶーとさくらの仲良し船旅ルーム」がある。各々の部屋には、熊本県のキャラクター・くまモンと、鹿児島県のキャラクター・ぐりぶーとさくらが配されており、子供に大人気。また、レディースルームも設定されており、レディース用のアメニティやウェルカムドリンクなども用意されている。



## First Single

### ファースツシングル

最も早く埋まるのが一人用の「ファースツシングル」。ホテルでいうシングルの広さで、10平米に幅90cmのベッドが一つ。のんびり一人旅を楽しみたい人にはぴったりで、机もあるので仕事もできる。



## Tourist Bed

### ツーリストベッド

大衆向けとして「ツーリストベッド」と「ツーリスト」を設置。前者は幅80cmの二段ベッドを配したもので4名タイプと6名タイプがある。家族利用もあるが、大半は一人客がよく利用する。片や後者は106名収容で、広間に幅60cmのマットを配したもの。ちなみにマットは指定になっている。

## Tourist

### ツーリスト

部屋は流石に個室とあってホテルと同じ。違うのは波の揺れと船の走る音ぐらい。大きな船だけにほとんど揺れは感じないが、波間を走る様が心地良い。地上のホテルよりも少し気持ちよく眠りにつけた。

朝、目覚めると、窓の外は海上景色一、不思議に思うほど夕方はよく睡眠がとれる。計算では7時には宮崎沖を走っていることになる。右手に日南が見える。朝食もバイキングスタイルだ。620円でチケットを買ってレストランで目覚めのコーヒーを飲むことにした。実は、早起きをしそこねた。幾人かは早起きし、海上からの朝日眺めていたらしい。船内でいつしょになつた梅田雄一さんは、阪神間にスタジオを持つカメラマンで、早朝からデッキへ出てその風景を撮影したのだそう。「タイタニックで有名になった手を広げて一人で立つボーズがあるでしょ。あれをデッキでやつているカップル

た。瀬戸内海なら月明りに島影が見えるのだが、志布志航路は太平洋を走る。故にこれといった風景はなく、暗い海と闇が広がるだけ。周りが暗い分、星空がきれいである。これだけ多くの星を見たのは何年ぶりだろうか。デッキでビール片手に佇むことが多い。部屋でBS放送を観てもいいのだが、せっかくの船旅だ。時がゆっくり流れるのを星空の下で味わうのもオツなものだ。

一風呂浴びて浴衣姿でデッキに出てみ



## Deluxe デラックス

「デラックス」は、「フェリーさんふらわあ」では最上級の部屋。20平米ある客室内に幅100cmのベッドが二つと、応接セット。勿論、バス・トイレ付きである。「さつま」「きりしま」とともに10室しかないので、船旅を贅沢に楽ししたい向うは、ここがぴったり。「さつま」のコンセプトはスペイン風で、「きりしま」は南仏をイメージ。まるでホテルにいるような心地で、室内も広いのでゆっくりしたい人には、ぜひひととオススメ。



## Deluxe B デラックスB

「デラックスB」は、「デラックス」の一つ下のタイプ。13平米の個室で、幅90cmのベッドが二つに、ソファーが付く(シャワー・トイレ付き)。ソファーをベッドとして利用すれば3名の部屋にもできる。開けば、ここをシングル利用する向うも多いのだが、価格も比較的リーズナブルなのでカジュアルクルージングに利用する人も多い。大半は洋室で、2室と少ないが、和室タイプもある。

そこから車を飛ばして両親が待つ長島町へ向かうらしい。袖すりあうも多生の縁どはよく言ったもので、このように見知らぬ人と会話をするのも船旅が持つ大らかさからか。新幹線や飛行機の移動ではこうはいくまい。前出の仲村さんの話によると、平日は100名前後の乗船客がいるそうだ。これが繁忙期(GWや夏休みなど)になると500~600人が乗つてくる。そこにはトラックの乗船もあるが、一般客も多いのは確か。移動の間も有効的に時間を使いたい人がそれだけ沢山いるというところだ。

18時になるとレストランがオープンする。食事はバイキング形式で、夕食が大人1540円である。料理は季節替りで、焼きそばに、唐揚げ、サラダ、オリジナルカレーなどメニューも豊富。志布志航路だからだろう、きびなご天といった鹿児島らしい料理も置かれている。見てみると、旅の楽しみの一つは食にあるのか、開くとすぐにに入る人がかなりいる。当方は、まずは夜の帳が降りるまで風景を楽しみたい。それからでも食事は遅くはない。

ら車で乗船できるために荷物も積めるし、何より寝ていてる間に移動できるので身体も休めます」とカジュアルクルーズの利点を語っていた。志布志に着くのは、朝9時前。そこから車を飛ばして両親が待つ長島町へ向かうらしい。袖すりあうも多生の縁どはよく言ったもので、このように見知らぬ人と会話をするのも船旅が持つ大らかさからか。新幹線や飛行機の移動ではこうはいくまい。前出の仲村さんの話によると、平日は100名前後の乗船客がいるそうだ。これが繁忙期(GWや夏休みなど)になると500~600人が乗つてくる。そこにはトラックの乗船もあるが、一般客も多いのは確か。移動の間も有効的に時間を使いたい人がそれだけ沢山いるというところだ。

18時になるとレストランがオープンする。食事はバイキング形式で、夕食が大人1540円である。料理は季節替りで、焼